

# 思いを未来へ

旧津山町時代に整備されて以来、「もくもく」の愛称で親しまれ、市内外の人たちに育まれてきた「もくもくランド」。当時の佐々木一郎町長の思いを起源に、木工職人育成や矢羽集成材誕生など、たくさんの人たちの思いが込められ、ここまで歩んできました。

しかし、近年は木工職人の後継者不足や三陸道延伸による交通量と売上額の減少、さらには台風の甚大な被害を受け、施設の存続そのものが危ぶまれている現状です。

このような中、小さな光も差し込んでいます。これまで、地域内ではなかなか見つからなかった後継者。現在、市外から2人の女性が木工職人を夢見て日々研さんしています。

本市には、昔から他の文化や人、知恵などを受け入れる土壌が代々受け継がれてきました。かつては、木工芸品としてデメリットの多かったスギ材。それが矢羽集成材という、丈夫でデザイン性に優れたメリットのあるものに生まれ変わったのは、地域だけでは超えられない課題を、さまざまな人たちの力を借りて取り組んだ結果です。いくつものスギ材が集まって出来上がった矢羽集成材のように、多くのヒトやモノ、コトが力を合わせたことで、地域が変わりました。

「もくもく」の愛称には、津山町民が過去の苦難の歴史を「黙々(もくもく)」と乗り越えてきた自負と誇りが込められているそうです。さまざまな人たちの思いを「矢羽」のようにつなぎ、一つ一つのことに「もくもく」と取り組んでいくことで、このデメリット(苦難)をメリット(復興)に変えていけるのではないのでしょうか。

## 第3章

# 未来3

# 復旧、そして復興に向けて

昨年の台風被害から、現在も復旧・復興への取り組みが進められている「もくもくランド」。復旧の現在地と、復興に向けた今後の方向性は。

### 長い歴史共に歩む できる限り支援を



東北工業大学  
菊地 良覚副学長

当大学は、もくもくハウスオープン当初から関わり、矢羽集成材の共同開発などをしてきました。今でもインターンシップで学生たちを受け入れてもらっていて、研修先としても大変人気のある場所です。

もくもくランドの魅力はそれを支えている「人」です。特に、木工職人たちの何んでも作れる技術力の高さは他にはない強み。そんな職人たちが作る木工芸品の質の高さを全国に発信し広く知ってもらおうことと、後継者を育てることが、今後の課題ではないでしょうか。

もくもくランドには、個人的にも長い歴史を共に歩んできた思い入れがあります。強みや課題もある程度、捉えていますので、復旧・復興に向けて、東北工業大学としてもできる限りの支援をさせていただきたいと考えています。

### 県林業のシンボル 発信拠点の役割を



県東部地方振興事務所  
登米地域事務所 林業振興部  
眞田 廣樹部長

県の林業担当職員の多くは、職歴を重ねる中で、もくもくランドの担当になることが少なくありません。私も1986年に入庁した際に矢羽加工の見学などを通じ、当時の木材加工の神髄に触れ、震災直後には仙台での「もくもくアンテナショップ」の立ち上げにも携わることができました。

もくもくランドは、林業に関わる職員にとって、理解を深め、成長の機会となる貴重な存在。森づくり、人づくりの拠点として、今も昔も圧倒的な存在感を放つ「聖地」と言えます。

登米市は、国の林業成長産業化地域に県内で唯一指定されている県林業のトップランナー。もくもくランドには、県林業のシンボルとして、登米市林業を市内外に発信する拠点としての役割を、今後ますます期待しています。

### 選ばれる道の駅に 市民と情報共有も



市議会  
産業建設常任委員会  
氏家 英人委員長

道の駅津山「もくもくランド」が復旧・復興していくためには、昨年の台風被害を教訓に、防災・減災対策をしっかりと講じた上で「選ばれる道の駅」にしていかなければなりません。

そのためには、市民皆さんの知恵と力を借りながら進めていくことが不可欠です。まずは市民の皆さんに、半日でもいいからもくもくランドに足を運んでいただき、見て、買って、食べていただく。市民一人一人のそうした行動が、大きな支えにもなります。

そういう意味では、市としても広報紙などを活用して、もくもくランドの現状をしっかりと市民の皆さんに伝えていかなければいけません。9町が合併し登米市が誕生して既に16年。「もくもく」は津山町だけの財産ではなく登米市民の財産なのですから。

## 皆の英知を結集し、創造的復興を目指す

被害が甚大で調査・検討に時間

令和元年東日本台風の影響から1年が経過しました。床上浸水で甚大な被害を受けたもくもくランドは、産直コーナーが元の場所で営業を再開したもの、もくもくハウスの木工芸品の展示販売と木里口の飲食提供は、離れた物産館内でもまだに仮営業している状況です。関係者や市民の皆さまには大変なご心配をお掛けしています。市としても、被害があまりに甚大だったため、調査や復旧方法の検討に時間を要しているのが現状です。

木里口については特に被害が大きくなり老朽化も進んでいることから、修繕は困難と判断し解体する方向です。もくもくハウスについては建物も比較的新しいため修繕して使用することは可能ですが、問題は昨年のような豪雨に見舞われれば、また同じように被災してしまうということ

です。令和元年東日本台風ではもくもくランドの裏を流れる南沢川が氾濫し、泥水や流木などが施設に流れ込み、大きな被害につながりました。南沢川の改修については早期に完了するよう、管理する県に働きかけています。

### 特長生かし、より新しい魅力を

もくもくハウスについては防災・減災機能を強化した上で、現地での再建を基本に考えています。ただし、三陸道の延伸で落ち込んだ入込数を回復させるためには、現在の「もくもく」の特長を生かしながらも、より新しい魅力を持った道の駅に生まれ変わらなければと考えており、その方向性については現在、長年支援をいただいている東北工業大学と相談させていただいているところ。私自身、合併前まで津山町長を務め、もくもくランドは「津山の顔」としての強い誇りを持ってきました



熊谷 盛廣市長

し、登米市長となった今では「登米市の誇り」であるため改めて認識しています。もくもくランドの将来については、市民皆さまの英知を結集し、復旧にとどまらない創造的復興に向けて取り組んでまいります。



東北「道の駅」連絡会  
会長  
荒井 顕 啓記事務局長

木の特長を大事にしながらかす親子連れが多い強み生かす

東北道の駅「連絡会」は、東北にある全ての道の駅を持つ自治体が加盟している会で、私は11年前からその事務局を務めています。

道の駅は年々増えており、全国で1180カ所(2020年7月現在)、東北だけでも165カ所。宮城には15カ所の道の駅があります。

道の駅津山「もくもくランド」は、林産品をメインにした東北でも珍しい道の駅です。施設全体に木の温かみを感じられ、スタッフ皆さんの温かい雰囲気と相まって、私の好きな道の駅の一つですね。「木」を前面に押し出す現在の特長は大事にしながらか、産直コーナーや木製遊具をもっと充実させると、道の駅津山の魅力がより増すのではと感じています。

道の駅は、道路利用者へのサービスの場として全国に広がっています。国土交通省では現在、道の駅を観光、防災の拠点と捉えるとともに、子育て世代が利用しやすい機能の強化に力を入れています。道の駅津山は、もともと親子連れが多く訪れる施設ですので、その強みを生かしていくのがいいのではないのでしょうか。



まちづくり推進部  
観光シニアプロモーション課  
千葉 道宏係長

「森の町」の朝ドラ効果活用「もくもく」への誘客も図る

もくもくランドは、地場産品の木工芸品の販売を通じた地域林業のPR拠点です。また、地元産の農産物の販売やおいしい食事の提供、親子連れで楽しめる野外の木製遊具など、多くの人が訪れる本市が誇る観光拠点でもあります。

本市は、来春放送予定のNHK連続テレビ小説「おかえりモネ」で、ヒロインが青春時代を過ごす「森の町」の設定です。市としても朝ドラ効果を活用して一層の観光振興を図りたいと考えています。森林の魅力も発信していきながら、本市の知名度や認知度を向上させ、誘客につなげていきます。